

令和6（2024）年度

地域学校協働活動推進員養成研修② 実施報告

実施日：令和6（2024）年7月19日（金）

本研修は、地域学校協働活動推進員としての資質向上を目的として、全5回の内容で実施されます。活動づくりの質を高めるために話合いの質を高めることが大切なことから、第2回は、ファシリテーションの知識とスキルを身に付けることをねらいとして研修を行いました。

講話・演習

「協働活動の質を高めるための話合い～ファシリテーションスキルを高めよう～」

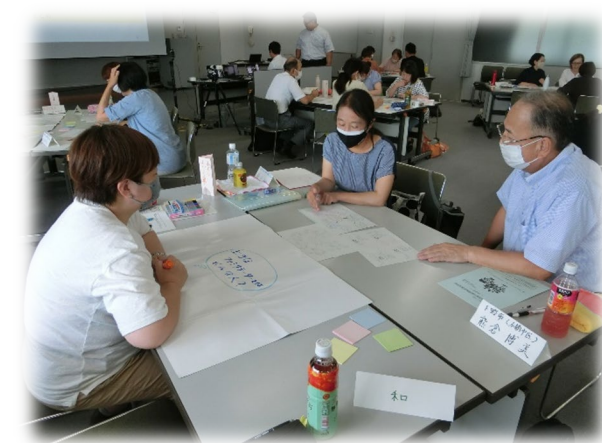
宇都宮大学 地域デザイン科学部 教授 石井 大一郎 氏

石井氏は、栃木県内外で、総合計画等の計画策定や、協働のまちづくり、学校と地域の連携、NPO 支援に関わる委員を数多く務めていらっしゃいます。また、自治会長、公民館長等を対象とした研修、自治体職員向けの地域自治や協働、またファシリテーションに関する研修の講師なども務められています。

今回は一日を通しての講話・演習でしたが、自らの御経験も交えながら、分かりやすく進めていただきました。



最初に、コーディネーターとして、学校での教育課題（学校の教育力の向上）だけでなく、地域課題（地域の教育力の向上）まで視野に入れておく必要性にふれ、自身の経験に基づいて、活動を進めていく上で話し合うことの大切さとファシリテーションの重要性について話されました。そして、ファシリテーションの機能や役割、コミュニケーションの技術についても確認しました。実際の活動につながる内容で、受講者にとって納得感のある学びとなったようです。



次に、「上手なファシリテーター」とはどのような人なのか考えるグループワークを行いました。その後、受講者は、「一人で話し過ぎる人への対応」「アイスブレイクをしようとしたら子どもみたいなことをさせるなと怒る人がいた場合への対応」「話合いに参加しようとしないう方がいた場合の対応」など、ファシリテーション上のトラブルへの対処を考えるワークにも取り組みました。受講者は、ワークを通してファシリテーターとして必要な要素に気付くことができたようです。

まとめとして、これまでに学んだファシリテーションの知識やスキルを生かしていくために、今後どのようなことを心がけていくか、受講者それぞれの思いや考えを一人一人発表しました。最後に、石井氏から、身につけたスキルを活用し、自分の関わる話合いの場を変えていくことこそが重要であると受講者へのメッセージがありました。

話合いの場が変わることにより、地域学校協働活動がより充実し、活動に関わる方々の当事者意識にも変容が生まれるといいですね。



【受講者の感想から】

- 互いを認め合い、良い関係を築くことができ、それを維持していけるようにしていきたいと思います。
- よりよいファシリテーションにしていくために必要なことを学ぶことができました。
- 日常でできることを考えながら、コミュニケーションしていきたいと思います。
- 目立たずに参加者の意見を多く引き出せるファシリテーターを目指していきたいと思います。
- 意見を復唱して他に投げかけることを心掛けるとともに、意見や話を見える化することを意識していきたいと思います。



研修内容に関するお問い合わせは、栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp